



# IEEE Japan YP News Letter

Vol. 2, September, 2018

Cover Design: Komei Hasegawa



# 目次

**目次** . . . . . **p.2**

**ごあいさつ** . . . . . **p.3**

**IEEE 役員への突撃インタビュー** . . . . . **p.4**

**YP Technical Stories** . . . . . **p.13**

**【コラム】そもそもYPって何?** . . . . . **p.15**

**編集後記** . . . . . **p.17**

# ごあいさつ

IEEE 会員の皆様、こんにちは。JC YP Coordinator の西宮です。この度、Japan YP News Letter の Vol.2 を発刊する事となりました。

今号の目玉記事は、第 2 回「IEEE 役員への突撃インタビュー」です。今回は“名古屋&Global”に焦点を当て、名古屋および世界にて活躍されている方々にインタビューを行いました。世界で大活躍されている福田敏男先生をはじめ、名古屋支部長の石橋先生、名古屋 YP の鈴木先生、そして R10 Director-Elect の西原先生と、豪華メンバーでお送り致します。近年、名古屋支部は YP AG を立ち上げ、LMAG を立ち上げ、名古屋 MAW (Metro Area Workshop) も開催し大きな成功を収め、輝かしい活躍をされております。その数々の成功を支えて来られました皆様にインタビューを行いましたので、ぜひお読み下さりましたら幸いです。

また、今回の Young Professional List は、東京 YP Vice Chair の吉田先生です。研究よりも教育に重視した記事で、教育者としての熱い眼差しが感じられます。

今号最後の記事として、IEEE 会員の皆様の中には Affinity Group やそもそも YP についてあまり知らない方もいらっしゃるかと思い、簡単ではありますが、YP や Affinity Group などについてご紹介させて頂きました。すでにご存じの方には退屈な内容かもしれませんが、まだ YP や Affinity Group についてよく知らない、もっと知りたい、という方はぜひお読み下さりましたら幸いです。なお、この記事は私が IEEE の本部の HP などを参考に作成致しましたが、もし間違いなど御座いましたらご容赦下さりましたら幸いです。ご指摘・ご意見もお待ちしております。どうぞ宜しくお願い致します。

ご意見・ご指摘等は西宮（ [kojiro.nisihmiya.jp@ieee.org](mailto:kojiro.nisihmiya.jp@ieee.org) ）まで宜しくお願い致します。

JC YP Coordinator 西宮康治朗

# IEEE 役員への突撃インタビュー

IEEE の役員の方々が普段 YP に対してどう感じているか、そして何を期待しているかをフランクに語って貰うコーナー。Vol.2 である今回は名古屋&Global に焦点を当て、世界で活躍する福田先生、名古屋支部長の石橋先生、名古屋 YP Chair の鈴木先生、そして R10 Director-Elect の西原先生をお迎えした突撃インタビュー！！YP Coordinator と皆さまでお洒落なお店で軽く飲みながらフランクに本音を語って貰うコーナー。堅苦しくなく、しかし真剣に、今の YP そして未来の YP について、熱く語って貰います。

## 本日のお客様

福田 敏男 様 (IEEE President-Elect 2019 Candidate, Division X Director / 2017-2018)

石橋 豊 様 (Nagoya Section Chair / 2017-2018)

鈴木 拓央 様 (Nagoya Section YP Chair / 2017-2018)

西原 明法 様 (R10 Director-Elect / 2017-2018)



福田様



石橋様



鈴木様



西原様

## 本日のお店

### GABUCHIKI ワイン倶楽部 名駅3丁目店

名古屋駅から徒歩5分程度。がぶりチキンの系列店であり、ここは1階分まるまる貸し切りがOKなお店(但し個室料金は別途必要)。学生などの若者からバリバリの社会人まで、幅広い世代の人たちで賑わう楽しい雰囲気のお店。今回は6階を貸し切り、自由気ままにインタビューを行った。

今回も個性豊かな皆様と、IEEEの将来を見据えて Young Professionals について夜な夜な自由気ままに語りあった記録をご紹介します。



\*本コーナーの飲食代に IEEE の費用は使用しておりません

## もったいない精神

皆でサングリア赤で乾杯し、2杯目に差し掛かる頃、頼んでもいないシャンディーガフがやって来る。お店の人が取り下げようとしたところ、

**西宮**：もったいないのでそれ飲みます！

頼んでいないシャンディーガフを貰う。

**福田**：今の若者でも「もったいない」をちゃんとやるんだ！偉い！

**西宮**：福田先生は北京でも教授をやられていますが、向こうの学生と日本の学生で何か違いを感じますか？もったいない繋がりとしても。

**福田**：向こうの学生は一緒にご飯を食べに行くと、自分が食べる物以上の物を必ず頼むね！自分が払わないでいいと思うからね。

**石橋**：でも中国人って、元々余らすのが礼儀とも言いますけどね。

**福田**：それが習近平の世代になって少し変わったらしいよ。なるべく自分が食べられる分だけ頼むようにして、余った物もパックに入れて持ち帰る人が増えているらしい。

**西原**：ドギーバッグってやつですね。**石橋**：まさにもったいない精神ですね。

**福田**：今の日本の方がそれをしないんだよ。特に最近の若い人とかは、いっぱい頼んで味見をして気に入らなければそのままにしてしまう人も増えてきたんだよね。

そういうのもあってか、研究に関しては特に向こうは20年以上遅れているイメージだと思うけど、論文をめっちゃ書くんだよね。凄くガツガツしているんだよ。

**西宮**：なるほど、「もったいない」という想いが、日常生活だけではなくて研究面でも生きてくるんですね。



Fig. 1 サラダ、ハム、チーズ達

## 名古屋 YP 設立！！

**西宮**：名古屋支部に YP が出来た前後で何か変わりましたか？

**石橋**：そりゃ物凄い変わったよ。やっぱりアクティビティが全然違うね。僕が特に印象に残っているのはやっぱり名古屋 YP のキックオフミーティングですね。あの頃僕は名古屋支部の Secretary だったんだけど、あの時 IPC (Industry Promotion Committee) Chair の持田さんとかが頑張ってくれて、こっちでは鈴木先生が大変な努力をしてくれてメンバーを集めてくれて、名古屋 YP が設立となってキックオフを開催したんだけど、その時に色々な話しをしてくれてそれを聴いて、とてもアクティブで感銘を受け、あ、このままじゃ名古屋支部はダメだ、もっと頑張らないかと思いましたね。

**西宮**：名古屋 YP の設立が、支部全体の活性化にも繋がったというわけですね。それはとても良い効果ですね！

## 就職活動の今昔話し

**西宮**：西原先生の若い頃と、今の若い世代について何か違いを感じますか？



Fig. 2 キノコとエビのアヒージョ

**西原**：まず今は YP という組織がある事自体が素晴らしいと思いますよ。でもさ、今の若者は職が安定していないよね(注：アカデミックの話)。我々の世代では、いきなりパーマネントで働けたからね。

**石橋**：ただし、上に上がれない可能性もありますけどね。

**福田**：一生助手のままという人も結構いたよね。

**石橋**：今でも、准教授までで満足して上に行こうとしない人もいますよね。職としても安定しているし、責任は教授より少ないし自由があるから。

**西宮**：他に昔の方が良かった点とかありますか？

**西原**：やっぱり身分が安定していた事が良かったよね。

**福田**：僕らの世代では、大学の教員は好きに行けや、という感じで、上の先生から言われて一発で決まっていたよね。

**石橋**：先生の言う事さえ聞いていれば良かったよね。

**鈴木**：上司の言う事さえ聞いていればそれで人生安泰という感じだったんですね。

**西宮**：昔はそういう感じだったんですね。そんなイメージは全く無かったです。

**西原**：でも、そういうのもちょっと画一的でつまらないよね。

**福田**：そうだね、そういう意味では当時は、先生の言われた事だけやっているわけだからね。ただまあ、その安泰なイメージも大学によりけりだけどね。自分の場合は結構大変で、先生からのコネはなく、先輩のコネで、とある大手企業の研究所に入れたけどね。でもそれも含めて考えると、やっぱり人生 Human Relation が大事だよ。人との繋がりから将来が生きてくるわけだよ。

**石橋**：やはり人脈は宝ですよ。

**鈴木**：今の大学教員も、とある学会で知り合った人からの情報で入ったという人も多いですからね。

**福田**：そうなんだよ、周りが背中を押してくれるんだよ。

**西宮**：昔の若者の話しに戻ると、結局特に昔の方が優れていたという点があるわけではないのですね。

**西原**：優れていたというわけではないけど、少なくとも就職環境は良かったよね、というくらいですかね。

**鈴木**：やっぱりその時代時代に合わせる能力が必要という事ですね。

**西宮**：つまり、「環境ありきの人」という事なんですね。

**鈴木**：そうですね、結局適応性というか、今の社会生活に合わせる事が出来た人が優秀なんですよ。

**福田**：ダーウィンの進化論だね。優秀な人が凄いのではなくて、適応出来た人が生き残る。

**石橋**：確かに、ゴキブリは生き残ってますもんね！

**西宮**：その上で、今の若者に期待する事って、ありますか？

**福田**：僕が子供の頃は、コッペパンにスキムミルクを食べてたからね！今の若者はもっといい物食べてるんだから頭も良くなっているはずだよ！



Fig. 3 炭火焼き鳥



Fig. 4 カルボナーラ

**石橋**：確かに、そういう意味では今の若者にはハングリー精神がないかもね！

**鈴木**：自分としては、「海外留学が減少」とかが問題視されることもあります。個人的にはそれは国内にいてもベンチャーやスタートアップ、さらには YouTuber など、挑戦する形態が多様になったからだと思います。なので、やり方は別として、挑戦することや高い意欲が大切かなと…。時代が変わっても、これは変わらないと思います。

### 先生という立場の変遷

**福田**：僕が小学生のころ、給食の時間に机に敷くナプキンを、広げなさいと先生に言われたのだけど、自分は広げなくても十分な広さがあるから広げなかったら怒られてね。家まで来られて親も叱られたよ。でも父親に事情を説明したら、「確かにおまえの言う事は正しいよ」と言ってくれたんだけど、「でもやっぱり先生の言う事は聞いておいた方がいいよ」と。

**石橋**：昔は先生の言う事が絶対でしたよね。先生というと、尊敬に値する立場でしたからね。

**西宮**：昔は先生の立場がとても高かったんですね。今は先生が舐められていますもんね。親が先生に怒りだしたりするし。なぜ昔は先生の立場が高くいられたんですか？

**石橋**：やっぱり先生を尊敬していたからね。特に親が先生を尊敬していましたね。勿論生徒もね。

**鈴木**：それは、昔は小中学校の先生になるのが大変だったという事ですか？

**福田**：そりゃあもう。

**鈴木**：なるほど、それじゃあ確かに尊敬されるべき存在でいられるわけですね。

**西原**：それでしばらくすると、「でもしか先生」が出てくるんですよ。

**鈴木**：何ですかそれは？

**西原**：就職先も上手く見つからず、最終的に「先生に“でも”なるか」、「先生に“しか”なれないや」という事になってきて。

**鈴木**：なるほど、そうやって段々先生の地位が下がっていったんですね。

**福田**：昔はすごいぞ、何かあったら必ず、先生に言ってやるというセリフが出てきたからね。

**西原**：「せ～んせいにいってやろ～」という歌まであったからね。（一同大盛り上がり…）

**福田**：僕らは塾とか予備校なんて行かなかったからね。学校の勉強だけだったよね。

**西原**：確かに、ある事にはあったけど、貧乏だったし、行く人は殆どいなかったよね。

**西宮**：先生の立場が高く、尊敬されていたからこそ、生徒達も一生懸命頑張ったんでしょうね。やっぱり教える立場の人を尊敬していないと、生徒自身の成長がないし、ハングリー精神も生まれて来ないんでしょうねえ。



Fig. 5 デザートのショコラケーキ

### 若者にとっての生きる価値とは

**西宮**：西原先生、今のままの知識がありながら、今20～30代だとしたら、どうしますか？

**西原**：それはあり得ないけどね(笑)でも、やっぱりそういう知識とかなくても無茶が出来るのが若者の特権だよね。知識はなくても行動が出来る。やりたい事は勢いでもやってしまえる。

**鈴木**：でも今の若者は、特にバブル・リーマンの後の世代だと、「生きる価値が見いだせない」「就職したくない」学生が多いように思います。家族がいるなら、養わないといけないという理由が生まれるけど、独身の場合は特に働く意味が見いだせない、という学生が多いように感じます。

**石橋**：社会貢献したいと思わないの？僕は社会貢献・国際貢献欲がとても高いけどね。

**西原**：そういう学生はつまり、視野が狭いという事だよね。自分の周りしか見ていないからそれで満足しちゃうんだよね。海外を見ればもっと貧しい国もあるし、自分の思う事が出来ない人が多い国もあるし、色々感じる事が増えるはずなんだけどねえ。

**鈴木**：まず勉強できるという事自身が幸せだという事を分かってないですよ。

**西原**：そうそう、そういうのも含めて、広く回りを見渡せば変えていきたいという気持ちが芽生えると思うんだよね。

**西宮**：そういう、貢献をしたいという気持ちの根本は何ですかね？

**石橋**：やっぱり、自分が役に立っているという気持ちが一番ですよ。

**鈴木**：今の若者は、一番下の歯車でいいから、適当なサラリーを貰えて、普通に生活が出来ればいいと思っている人が多いんですよ。

**石橋**：そんなの、何の意味もないですよ。

**西原**：ないよねえ。

**石橋**：やっぱり、人にありがとうと言われるのが凄く嬉しいんですよ。今考えると、それが高いモチベーションだと思います。

**西宮**：今は多分、そのモチベーションも低いんだと思います。人との交流が希薄になってくると、周りからありがとうと言われて喜ぶ気持ちも薄れてくるのかなあと。

**福田**：俺が子供の頃はさ、凄く田舎に住んでいて、冬も雪が凄く積もっていたんだよね。そうすると、頑張って雪かきをしていたんだよ。それでちょっと自分の家から外の範囲も頑張るんだよ。そうするとさ、近所のおじさん達が凄く褒めてくれるんだよ。「坊や凄くね！頑張ってるね！」と。で、そう言ってお菓子をくれて、親にも報告してくれて。それが嬉しかったんだよなあ。

**鈴木**：成功体験ですね、褒められる事の嬉しさを味わう事が出来る良い体験が出来ていたんですね。

**西宮**：それは教育においてももしかしたら一番重要な事かもしれませんね！我々大学教員も積極的に学生に成功体験をさせてあげるのが実は一番大事なのかもしれませんね！

### 若さゆえ～

**西宮**：西原先生、「若さ」とは何ですか？

(福田：若さゆえ～。石橋：傷つく～。二人が歌いだす)

**鈴木**：何すかそれ？

**福田**：ネットで調べてよ。



Fig. 6 名古屋3英傑(笑)

**西原**：やっぱり若さとは「チャレンジできる！多少無茶してでも！」という事に尽きると思いますよ。

**西宮**：なるほど。そうすると、やっぱり“若いうち”に無茶してでも成し遂げたい目標を持つ事が「若さ」を十分に生かす為のカギなのかもしれませんね。それが出来るような教育を心がけていきたいと思っています。

### 異分野交流の大切さ

**福田**：ところで西原先生はなぜ IEEE を選んだの？

**西原**：それはやっぱりテクニカルな面からです。国際会議で発表したり論文も読むし。

**西宮**：テクニカルな面から行くと、そのままソサイエティや TAB の方面で、MGA には来ないと思いますが、今は MGA で大活躍されていますよね。それはどういったきっかけですか？

**西原**：それは大阪大学の白川功先生（現兵庫県立大学）に誘われてね。でもそうやって誘われてやってみたら、思ったより得られる事が多くて。MGA は特に広い範囲の人々と付き合えるからね。視野が広がるのが良いですね。

**西宮**：やっぱり異分野交流は大事ですね。そういう意味では日本では TOWERS とかはいいですよね。

**西原**：あれはすごいよね！素晴らしいよ。特に日本では TOWERS があっての YP な気がするよね。

**西宮**：確かに、自分も含め今の東京 YP の半分くらいは TOWERS 出身ですもんね。

(注：TOWERS についての詳細はこちら。<https://www.young-researchers.net/> また別の号でも紹介致します)

### 西原先生から YP へのメッセージ！！

**西宮**：西原先生、最後に YP メンバーにメッセージを。来年 R10 Director になるにあたって、どうなってほしいですか。

**西原**：私の中では、こうなって欲しいというのはなくて、それぞれが自由に頑張っていて欲しいね。

**石橋**：やっぱりボトムアップじゃないとね！下から盛り上げて欲しいですね。

**西原**：そう、私が言うのではなく、独自に頑張っていて欲しいですね。私はそれをサポートする立場でありたいですね。

**西宮**：確かに、言われた事をただやる若手より、自身の夢に向かって各自が頑張ってくれた方が周りも活性化されていきそうですね！

色々考えさせられるお話しをどうもありがとうございました。大変勉強になりました！



Fig. 7 第一ラウンド終了

西原先生は翌日の仕事の為、ここで帰宅された。そして残ったメンバーで第二ラウンドに移動した。

## 第二ラウンド 塚田農場名駅店にて焼酎ボトル！



Fig. 8 第二ラウンド@塚田農場名駅店

### 若者よ、夢を持って！！

**西宮**：石橋先生、昔の若者と今の若者と、何か違いがありますか？

**石橋**：夢がないよ！僕はね、今でも毎週アニメのワンピースを見ているんですよ！あれはね、全員が夢を持っているんですよ。それぞれが違う夢を持っているんですよ。今の若い人に聞くと、…夢がないんですよね。

**西宮**：確かに。今の学生でしっかりと夢を持っている人、あまり見かけないですよ。

**石橋**：僕はね、叶わなくてもいいから、とにかく夢を“見る”ことが大事だと思うんだよね。

**西宮**：そうですね、それは本当に大事ですよ。でも今の若者は皆ワンピースを読んでいます、それでも自分自身で夢を持とうとまでは思わないですよ。こいつら凄いな、と思うだけに留まっているようにも思います。どうすれば、自身の夢を持てるようになると思いますか？

**福田**：それ日本人じゃなくて中国人はさ、皆夢を持ってるよ！やっぱりハングリー精神は大事だよ。

**西宮**：なるほど、現状に満足するのではなく、常に何かを求める姿勢というのが大事なんですね。

**石橋**：やっぱり僕はさ、名古屋 YP のキックオフなんですよ。あれで感銘を受けてもっとコントリビューションしないといけないと思って、名古屋支部に対して僕の意識が変わったんだと思います。名古屋 MAW も本当に頑張ったし。(注：MAW Metro Area Workshop)

**西宮**：あれは凄く良かったですよね。参加者も凄く多かったし、趣向も色々凝らしてて講演のクオリティも高く。 **石橋**：それも本当に、YP 設立が最初のきっかけだったんですよ。

**西宮**：やっぱり色々なところで YP の影響が少なからず出てきているという事ですね。もっと頑張っていきたいですね。

**石橋**：そうなんです、それで僕は IEEE のパワーを知ったんですよ。これは上手く行けば多くの人が幸せになる為の活動がもっと出来るなと思って。それで可能性を感じて、さらに LMAG も立ち上げてきたわけですね。持田様に沢山手伝ってもらってね。そうやってどんどん活動の幅を広げていったんだけどね。でもやっぱりその根本が YP だったんだよ。「YP なくして石橋なし！」と思って貰っていいくらいですよ！

**西宮**：その若者に対して何か言いたいことはありますか？

**石橋**：夢を持て！そして IEEE を利用しろ！利用という言葉悪いかもしれないけど、要するに、自分のやりたいことを IEEE を通して実現しよう、という事ですね。学会は色々あるけど、IEEE は特に若手がそれをするのにやりやすい場だと思うんですよ！実際、YP の活動によって僕は凄く影響を受けてますからね。YP が無ければ MAW もないし、LMAG も立ち上がっていないし。だから鈴木先生にはとても感謝しているんですよ。今まで口に出した事ないけどね(笑)

**鈴木**：ありがとうございます(笑)

**鈴木**：自分から言いたい事は、個人的には、守りに入ったら若くないかなと思います。そのため、「何にでもなれる。何でもできる。」という向上心を持っていることが「若さ」ではないでしょうか？

**石橋**：その通りだね。でも今の若い人たちは自分たちで限界を定めてしまっている傾向が多いと思う。でも僕はそんな事はないと思う。

**福田**：そうだ、Unlimited なんだよ。**石橋**：まさにそれですね。若者には無限の可能性があるんですよ。でも今の若者がそれに気づいていないんだよ。

**西宮**：どうすれば気付けますかね？

**石橋**：やっぱり成功体験だよ。そういう意味では YP はとても良い場だと思うよ。YP という組織に加わって、何かを成し遂げて、周りから感謝されてね。そういう体験が次の挑戦に繋がるんだよ。

**福田**：そういう動きの中で、さらに肩を押してくれる存在というのがいると特にいいと思うんだよ。IEEE はそういう人が多いと思うよ。若手が何かをやりたいと言えば、必ず周りが支えてくれるし、一緒になって行動してくれる。それがいいよね。それがあから、西原先生が言ったような、「無茶」も出来るんだよ。

**鈴木**：同感です。私も、IEEE 活動を頑張ると、生活は 2 倍大変になりますが、2 倍充実すると考えています。なので、1.5 倍や 3 倍など、各自が好みの範囲で参加し、人生を豊かにして貰えたらと思っています。

### **立場が人をつくるんだ！！**

**福田**：俺なんかもさ、若い頃に腐っていた時に、原島文雄先生に誘われて海外など IEEE 関連の色々なところに連れて行かれたんだよ。そしたら世界が広がってさ。とても救われたんだよ。

そして、「おまえはこれから世界の Automation の Committee の Chair になれ！」と言ってくれてね。30 代でだぞ。凄いよな。

**西宮**：凄いですね。そこまで任せてくれるんですね。他人に責任を伴う大きな仕事を任せるのって、そこに大きな信頼と深い結びつきがないと出来ない事だと思うけど、上の先生が下の人達にそういう想いを持って下さっているというのは本当に心強いですね。

**福田**：そうなんだよ。それで俺はそれから国際会議の Chair も何度もやらせてもらったし、世界規模の仕事をどんどんこなすようになってきたんだよ。

**西宮**：沢山の成功体験をされて来たんですね！福田先生みたいな人を作るにはどうしたらいいんですかね？

**福田**：それは簡単だよ。若い人でも、TAB でも MGA でも本部の一番偉い会議に出席させるんだよ。場所が人を作るんだ。立場が人を作るんだ。俺だって Chair をやれと言われて、与えられたから出来たんだよ。

**西宮**：なるほど、その立場を与えられたからそれに見合った人になるんですね！やっぱり、責任感は大事なんですね。立場を与えられて初めて責任を手に入れる事が出来るんですね。そうすると、さっき言っていた、夢を持つ、というより先に責任を持った方が伸びるのが速いんですかね？

**福田**：いやいや。それは両輪なんだよ。責任だけじゃだめで、夢も持っていないと大成しないよ。

**西宮**：なるほど、確かに夢がないのに責任を与えられても上手くいかないですよね。夢のある人が責任を与えられて、初めて上手くいくんですね。まさに、夢と責任を次世代に継承していく事が大切なんですね！

ここでラストオーダーを迎え、第二ラウンドが終了した。

**西宮**：長い時間皆様本当にありがとうございました！

その後、福田先生と西宮がこっそり第三ラウンドまで行き、深夜まで語り明かした…。

今回は名古屋に焦点を当てたインタビューだったが、皆とてもユーモアで面白い話が沢山聴けた。特に第二ラウンドは、ほぼ皆ただの酔っぱらいになっていたけれど、話す内容が実に深く、よくこんな状態でそんな話しが出来るなぁと改めて感心した。恐らく今日お会いした皆の本性が本当に真面目で一生懸命生きているからこそ、酔って色々な理性が抜け落ちた後、そこに熱い芯のある人間味が現れてくるのだろう。今回も、若手として今後どう頑張っていくべきか、どう生きていくべきかが問われている、良いインタビューとなった。



*Fin*

# YP Technical Stories

新進気鋭の YP が手掛けている研究・開発内容や仕事内容を毎号数名ずつ紹介するコーナー。現在の成果のみならず、将来に向けての抱負や夢も含めて、各自が持つ技術、貢献したい世界などについて、若手ならではの視点で科学技術を見つめる記事。

## <Professional List No. 2>

**吉田 嵩 (YOSHIDA Takashi)**

**所属：東京都立産業技術高等専門学校**

**IEEE 役職：IEEE Tokyo YP Vice Chair**



私が IEEE に入会したのは、私が博士課程に進んだ時に「電気で博士とるなら IEEE 入らなきゃダメっしょ！」という非常に安直な理由からでした。それから1年と少しの間は、会員としての利益は論文と投稿費の割引のみという、今考えると非常にもったいない期間が続きました。転機が訪れたのは博士2年のとき、たまたま IEEE TOWERS (学生運営の異分野連携学術ワークショップ) の宣伝をしにいらしていた、当時の委員長をされていた粕谷さんと副委員長をされていた竹村さんにお会いしたときです。彼らは「分野の垣根を越えてそれぞれの研究成果を発表する場を作ろう！」と仰っていて、私は強烈に刺激され、その場で参加することを決めました。そこから TOWERS 実行委員、副委員長を経て、学位取得後は Tokyo YP として活動しています。

私が思う TOWERS や YP の魅力は、最前線で戦っている仲間たちからパワーを貰ったり、悩みを共有したり、知識を共有したりして互いにレベルアップできる点です。また、Tokyo YP では、キャリアに関するイベントやハッカソン、小学生向け理科教室など、非常に多岐にわたるイベントを主催しています。これらのイベントは自分が何をやりたいのかを見つめなおす良い機会となりますし、運営に当たって試行錯誤をするうちに、多くのものを得ていると思います。(研究と同じで、うまくいくことばかりではありませんが笑)

現在、私は高専で助教を務めております。前職は大学だったのですが、高専に移った最大の理由はもっと深く専門教育をやりたいというものでした。大学では1学年100名を超えるような大所帯でとても1人1人に目を配ることができませんでした。高専では1学年40名弱ですので、学生1人1人がどれくらい理解しているかが良く分かります。今後どうなっていくか分かりませんが、少人数制でしっかりと専門教育、それも座学だけでなく実技を豊富に経験できる高専というシステムを継続するのに役立ちたいなと思っています。

最近の技術のトレンドと言えば、深層学習のインパクトはすさまじく、「すべてを焼け野原にした」と仰る方もいます。私自身そう思いますが、何よりも一番変わったなあと思うのが様々な手法がオープンソース化され、AWSなどのビジネスもでてきたことです。最近、素人でもインターネットでちょっと調べるだけで、自分で試すことができちゃう。すごいことです。その一方で、どのモデルを選ぶか、パラメータはどうするか、ハードウェアにどう実装するか、といった「経験」や「知見」が必要とされる部分はまだまだ多くあるように思います。一教育者として、一研究者として、これらの「経験」をつむ機会を次世代の技術者に提供出来るよう努力を重ねていこうと思います。

乱文で大変お恥ずかしい限りですが、最後までお読みいただきありがとうございました。最後になりますが、このように発信する機会を下さいました、西宮さんに感謝いたします。



Fig. プライベートと仕事のメリハリ

# 【コラム】そもそも YP って何？

IEEE 会員の多くは、専門分野の知識の向上、最先端の情報共有、学会発表、論文投稿などを目的として IEEE の会員となっているのではないかと思います。そのような方々の多くは、もしかしたら、「そもそも YP って何？」という疑問をお持ちかもしれません。この記事では、簡単ではありますが、YP の立場や状況をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

IEEE はテクニカルな面を TAB (Technical Activities Board) という組織が、地域ごとの活動を MGA (Member and Geographic Activities Board) という組織が担っており、この 2 つの側面から互いに補完しながら IEEE という組織を運営しています。(他にも Educational Activities Board, Standards Association Board of Governors などいくつか組織がありますが、詳細はこちらをご覧ください。  
[https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/organization\\_summary.pdf](https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/organization_summary.pdf))

下図のように MGA では地域ごとに Region が分かれており、基本的にはそれぞれの Region の中で活動を行っております。日本は Region 10 に属し、この Region は、アジア・パシフィック地域の括りとなっております (紫色のエリアです)。

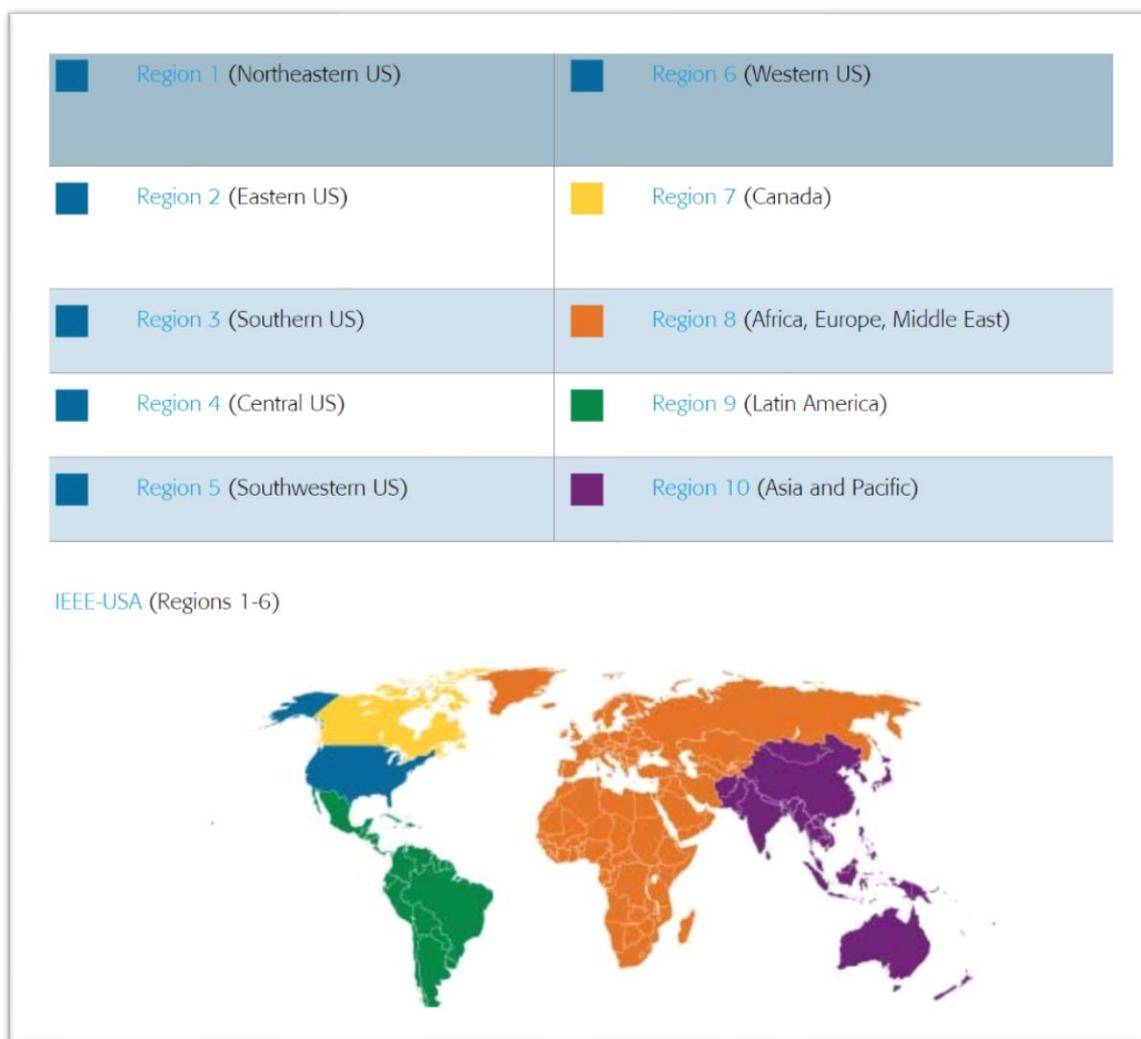


Fig. IEEE における各 Region の構成

そして MGA の中には、Affinity Group という組織があり、IEEE の HP 上では以下のような説明になっております。

IEEE affinity groups are non-technical subunits of one or more Sections or a Council. An affinity group is a local unit of an IEEE organizational unit or standing committee, established by petition to the parent organizational unit, to fulfill the purposes of IEEE.

(<https://mga.ieee.org/resources-operations/geographic-unit/affinity-groups> より抜粋)

上記のように Affinity Group はノンテクニカルな組織となっており、各地域内でのローカルユニットになります。逆に言うと、様々な専門分野の人が同時に集まる組織でもあり、異分野交流という意味ではテクニカルな面でも将来的に多大な恩恵が期待出来る集まりになります。また、Affinity Group のタイプとしては下記の 4 つとなっております。

- [Consultants Network](#)
- [Life Members](#)
- [Women in Engineering](#)
- [Young Professionals](#)

この中の Young Professionals (YP) というグループが、我々若手メンバーの組織となっております。そして我々日本は、R10 Young Professionals という枠組みとなります。さらに日本には全部で 9 つの支部があり、それぞれの支部の中に Affinity Group を組織する事が出来るようになっております。現在は、東京・関西・名古屋支部において YP Affinity Group が存在しております。

また、YP には Region ではなく全世界レベルのグローバル YP という括りもあり、HP も存在しています。( <http://yp.ieee.org/> ) その中で YP の定義は、IEEE defines Young Professionals as the group of IEEE members who have graduated from their first university degree within the last 15 years. Additionally, there is an opt-in/opt-out option available for members who have graduated more than 15 years ago or who do not wish to belong to the Young Professionals group.

(<file:///C:/Users/mauth/Downloads/YP-Business-Plan-1.pdf> より抜粋)

となっており、基本的には最初の学部卒業後から 15 年以内の会員が YP の定義になっていますが、希望があれば、それに限らず IEEE のアカウント上でいつでも YP を選択する事が出来るようになっております。ですので、YP の年代ではないけれど YP を支援したい、あるいは自分はまだまだ YP だという人も同様に活動できるような仕組みとなっております。

さらに Affinity Group として YP を立ち上げると、支部やグローバル YP に予算を申請する事も可能になり、メンバー同士で様々なイベントを開催する事が出来るようになります。WIE, LMAG, Student と共催する事も可能であり、多様なポジション、分野、年代の方々と交流出来る良い機会が得られます。

皆様も、もしも YP に興味がありましたら、是非一緒に活動していきましょう！！

## 編集後記

今号も、多くの皆様にご協力して貰いながら何とか発刊する事が出来ました。お忙しい中お読み下さりました読者の皆様にも心より感謝申し上げます。

さて、私事ですが、うちには3歳の息子がおります。こういう学会活動をしていると、ボランティアなのでお金にはならないし、その上時間だけは取られて…。と、家族からはあまり良くは思われたい、という方々も多いのではないのでしょうか。私も IEEE の活動をしていると時間はどうしても取られるので、家族の時間が減るのは確かにあります。ただ、IEEE の活動自体はとても楽しいし、何よりも自分の将来に生きてくる活動だと信じているので、自分は楽しく頑張る事が出来ています。特に様々な人たちとの交流は、自分の成長にも繋がるし、ふとしたときにそういう人脈が凄く生きてくることもあります。長い目でみれば、ボランティアではあるけれど、決してタダ働きをしているというだけでなく、自分にも周りにもフィードバックが大いにある活動だと思っております。ただ、短期的に見るとなかなかそのメリットは家族や周りには分かって貰えないかもしれませんが・・・。

それで、私は平日だけでなく土曜・祝日も結構学会活動をしているので、少しでも空いた時間は必ず子供と全力で遊ぶようにしています。そういう感じで育児をしていて最近思うのが、育児の本質は、「子供の心の中に幸せの種を沢山蒔くこと」なんだろうな、と感じるようになりました。最近、育児をしながら、自分が子供の頃の事をよく思い出すようになったのですが、自分は結構日常の何気ない瞬間に幸せを感じる事があります。例えば季節の移り変わりの瞬間、夏が終わって秋がやって来たなと思う瞬間があるのですが、それを感じるとそれだけで幸せな気持ちになります。他にも、夜の都会の街並みを歩いたり、レストランでご飯を食べるのが、何となくそれだけで幸せを感じるのです。よくよく思い出してみると、自分が子供のころ、両親がクラシック好きで、たまに東京に出て（自分は神奈川の田舎に住んでいました）コンサートとかに連れて行って貰うのですが、その後に東京の街並みを歩いてレストランで美味しいご飯を食べさせて貰った記憶がずっと残っていて、それで今でも夜の都心の街並みやレストランが何となく好きなんだなぁと気づきました。やはり、子供の頃に親にしてもらった様々な経験が、今の幸せの種（きっかけ）になっていたんだなと、しみじみと思うようになってきました。だから、自分も子供に沢山の幸せの種を蒔いてあげて、将来大人になった時、日常の至るところで幸せを感じられるような感性豊かな人間に育てて欲しいなぁ、と思いつつ、育児を頑張っている今日この頃です。

完全に私事な話で恐縮ですが、こんな感じで本業・学会・育児を上手く両立させながら頑張っていこうと思っておりますので、引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

JC YP Coordinator 西宮康治朗